

出席者：S, Hr, Y, O, T, Hs, N, M

司会：Hr

### 「主の祈り」

- ・資料配付
- ・資料を参考に、齋藤氏（登壇者）からの説明の時間を持つ。

### 資料の説明

記録者の記録を登壇者が読み、説明補足・翻訳修正等を補った「ノート」をパワーポイントファイルに加えた。これを「スライド+ノート」閲覧モードにし、更に PDF 化し添付した。

sovereign transit in CST rev10 NOTE add rev3.pdf

「資料の説明」として、こちらを参照されたい。

なお、登壇者から「分量が多すぎた上に準備不足でした。次回分科会からは、スライドは 10 枚程度とし予め説明を吟味し、それを「ノート」として加えて資料を作成します。混乱を与えて済みませんでした」とお詫びがあった。

### 質疑応答

A: 量子力学について、家人に説明を求めたところ、「箱の中に、何時（いつ）核分裂して致死量の放射線が出るか確率的にしか分からない放射性同位体と、一匹の生きた猫を入れて蓋を閉じる。その猫が生きているかいないかは、蓋を空けて猫の生死を確認するまで確率的にしか分からない。つまり幾つもの realities（複数現実）が並行して進む話」との説明を受けた。

登壇者: それは、スライド 20 の Penrose 氏の文章にある quantum parallelism（量子並行性）のことだ。自分も、学生時代は「本当かな」程度の思いで受け止めていたが、今や、量子コンピューターの動作確認も完了し、本当に、量子並行性による複数の realities の中に我々は生きているのだ、と確認されている。

それでは、そういった複数の realities の中から'oneness'--- つまり「私」が居る一つの「世界」がどうやって生じるのか？ それは未だこれからの研究課題だが、あと一歩の手応えを感じながら quantum mind theory の研究者達は研究を進めている。

B: 繰り返し説明を受けたが、日本語に限界があることが、日本でキリスト教が受け

入れられにくい理由ではないだろうか。

登壇者：そうだと思う。もう一つ理由を加えるなら、スライド 2 でも説明したが、ここ 150 年ほどの間にキリスト教が大きく変化したことが挙げられる。

150 年ほど昔、鎖国を終え開国に向かう日本にキリスト教が再び紹介された 19 世紀は、西洋においても **Inventing the People** (the people 概念の発明) の時期であり、例えばカトリックにおいても、当時生まれたばかりの **democracy** は **just** と **right** と認められていなかったし、**virtue ethics** に至っては現れてもいなかった。そういった 150 年前のキリスト教であれば、漢籍に詳しい明治の学者達が補強した「日本語」で十分理解できたのだらうし、事実一定量のキリスト教化が日本において進んだ。

しかし 20 世紀に二回の世界大戦を経てキリスト教は大きな変貌を開始した。特に、第二次世界大戦直後の **human rights** 概念 --- 日本語で「人権」と捉えたら見落とすが、英語の字義通りに捉えれば「ペルソナを持つ **person** でなく生物学的人間である **human** が、神の右 (**right**) に座す正しさ (**righteousness**) を持ちうる」という、従来のキリスト教から考えたらトンデモない話 --- に関する全世界を巻き込んだ議論は、理性と信仰、哲学と宗教の **Dialektik** (対話ないし弁証法) を大きく進める契機となった。結果、キリスト教は大きく変貌を遂げた／遂げつつある。

スライド 12 とそのノートに示したが、**right** と **just**、**sin** と **guilt**、**Recht** と **Gesetz**、**freedom** と **liberty** 等、あるいは肝腎の **person** と **human** を区別できない日本語では、大きく変貌を遂げた現在のキリスト教を理解することは出来ないのでは。

A： M 商事の社長が、日本人にはゆとりが必要であり、若手の社員には仕事の時間を一定に留め、ゆとりを持たせ、新しい発想をするようにさせているという話をしていた。最近、ベトナム転勤となった同社の社員である婿もその影響を受けているかも知れない。

登壇者：「ゆとり」というと「ゆとり教育」を思い出す。「ゆとり教育」は失敗に終わったとされるが、それは「ゆとり」の本来の意味を取り違えたからであって「ゆとり」が悪いわけではないと思う。

「ゆとり」の本来の意味、というか「ねらい」は「個の充実」「個の再構築」だと思う。決められたカリキュラムに沿って「過去問」の **pre-constructed answers** を頭に詰め込む時期も確かに必要かもしれない。しかし、それからいったん離れ、時には **disruption** (破壊、途絶) して「自分は何なのか」**scratch and (re)build** するのが「ゆとり教育」「ゆとり」の本来の意味だと思う。それは丁度、第二次世界大戦後に、世俗と宗教が激しくぶつかり合いアウフヘーベン (止揚) し、**virtue ethics** が生まれ出るように...

C： 西洋と日本の話は理解したが、アジアではどうなのか。

登壇者： アウフヘーベン後のキリスト教に関する（日本と北朝鮮を除く）アジアの inculturation（文化受容）は、日本人の想像を遙かに超えて進んでいる。

日本の西洋化は時期が早すぎた。明治維新も戦後の GHQ による改革も、20 世紀終盤になって本格化した世俗と宗教のアウフヘーベン以前に起こったこと。日本は、アウフヘーベン前のキリスト教の影響を受けたに過ぎない。1946 年に GHQ 案を元に導入された日本国憲法も、残念ながら、該アウフヘーベン前の「憲法」に留まっている。

実は詳しく言うと、1946 年 GHQ 作成の日本国憲法案（英文）は、common good と public welfare を使い分けるなど 21 世紀世界水準の「憲法」となっていたのだが、その違いを 1946 年の日本人には理解できなかった。どちらも「公共の福祉」と翻訳して現在の日本国憲法ができてしまった。弊害は例えば 12 条の権利濫用 (abuse of rights) 定義に出てしまっている。権利濫用 (abuse of rights) は、その行為が common good を害するとき成立し public welfare を害するだけでは成立条件を満たさないはず。

憲法 9 条は素晴らしいが、その他の点で日本国憲法は、20 世紀末から現在も続く世界的「憲法変動」--- 2006 年発刊から 4 年毎に矢継ぎ早に四回の全面改定が続いている三省堂『新解説 世界憲法集』のキーワード --- に追いついていない。見劣りがする。

「日本は西洋化先進国」は最早誤解。例えば、90 年代以降に西洋流憲法導入を本格化させた中国は...。（詳しくは、私が 2014 年に書いた[この記事](#)の 2-6 頁を参照方。）

D： 中国は anarchy と言われている。もともと二つの考えがあるのではないか。日本は、the public sphere の考え方ができない。the people がいない。教育基本法から「普遍的にして個性ゆたか」が消え「国を愛する心」が密かに盛り込まれてしまったのが、その一例である。

E： 教育基本法の改定るとき、おかしいと思った人は居たはずである。

登壇者： 日本に the people がいないわけではない。ただ、絶対的人数が足りず発火点に達しない。「中国にはもともと二つの考えがある」には同意する。スライド 7 で説明した両権論の様な考え方を西洋と並び中国も古くから持つ。例えば「易姓革命」の考え方。権力者を人々が倒す革命権 (right of revolution) が中国には古くから存在する。

E： 本質的な物は目に見えない、心で見なさい。砂漠がどうして美しいか、井戸が何処かに隠れているから。（サン＝テグジュペリ）

登壇者： スライド 14 のノートで触れたが、人間知性の構築手順の 1. framing（何処までを reality とするかの枠組み作り）の問題だと思う。次回 7 月に詳しく説明する。